

優良経営体事例

株式会社 Growble農人

調査日 平成27年9月
平成31年1月(更新)

所在地 香川県観音寺市

経営主 近藤 芳臣

主要事業 露地野菜

主要作目 レタス16ha、水稲12ha
小麦 7ha、タマネギ4.5ha
ブロッコリー 2ha
ニンニク 1.5ha 青ネギ 2ha
キャベツ 2ha
スイートコーン 1.5ha

就農タイプ 継承

法人化 平成25年(就農後7年目)

売上 9,000万円

従業員 常勤 6名(内役員 4名)
臨時雇用 4名、実習生 8名

ヒストリーあらすじ

・瀬戸内の温暖な気候や野菜に適した土壌条件、若い農業経営者が生き生きと活躍する姿、兼業農家出身で基盤があり、就農に最適な環境であることに気づく。

・H18年 Uターンで本格的に就農。両親が手掛けていたレタス、青ネギ、水稲を中心に経営開始。

・H20年 採種タマネギの導入。拡大に見合った最適な作業体系の確立を図る。

・レタスを中心とした経営規模の拡大を行い、省力化、作業性、品質向上のための機械、施設整備と雇用労働力を導入。

・両親からの経営移譲を見据えて家族経営協定を締結。

・真剣に取り組む姿を見た近隣農家から借地の申し出が急増。

・H25年 株式会社Growble農人を設立。グローバル(国際化)+グローアップ(成長)+ベジタブル(野菜)が社名の由来。

・従業員がやりがいを持って取り組める職場環境の整備、経営基盤の強化、計算のできる経営の確立に取り組んでいる。

エッセンス	
●雇用労働力の活用	・効率的な人員配置 ・目的意識を持って作業する従業員 ・熟練度合いによって責任分担、作業リーダーを中心とした作業体制
●規模拡大	・省力化のための機械整備 ・作業性と品質向上のための施設整備
●野菜とともに人も会社も成長	・世界で勝負できる野菜、会社を目指す



作業場兼資材置き場



自家育苗のネギの生育状況をチェック



青ネギのほ場にて



会社の経理は奥さんのくるみさんが担当



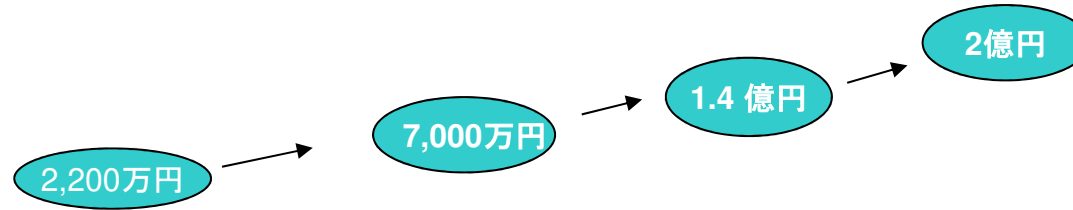
タマネギの選果作業

株式会社Growble農人 ヒストリー

就農前	就農期 (平成18年～19年)	転換期 (平成20年～24年)	発展期 (平成25年～27年)	発展・将来構想 (平成28年～)
<p>●農業は職業として選択肢に無かった。</p> <p>兼業農家に生まれたものの、大学卒業後は農業とは全く関係の無い会社に就職。</p> <p>北海道、関東、九州と、全国を転動する生活を経験。この間に奥さんと出会い、結婚。</p> <p>勤務先の会社が倒産。やむなく故郷の香川へ戻り、再就職を検討することに。</p> <p>この時点で、職業としての農業は全く選択肢に無かった。</p>	<p>Uターンで本格的に就農(H18)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親が手掛けていたレタス、青ネギ、水稲を中心とした経営に参加。 ・農業大学の社会人向けコースで野菜栽培の基礎を1年間学んだ。 ・借地による規模拡大を試みるが、県下でも有数の野菜産地であるため、思うように農地の集積が進まなかった。 <p>両親と3名が基幹的労働力の家族経営</p> <p>地域の担い手会へ参加。地域の若手農業者との交流。</p> <p>豊南担い手会は若手6名の仲間が企画提案し始まった勉強会。これに、開始当初から参加。会長や規約のない自由な会であり、毎月1回、経営や技術の勉強会を実施している。</p>	<p>H20(2008年)新規作物を導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの水稲、レタス、青ネギに加え、採種タマネギを導入。 ・規模拡大に見合った最適な作業体系の確立を図る。 <p>レタスを中心とした経営規模の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省力化のための機械整備。 ・作業性及び品質向上のための施設整備。 ・雇用労働力の導入と効率的な人員配置の確立。 <p>家族経営協定の締結(H23年)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営移譲を見据えた家族経営協定の締結と経営改善計画の共同申請。 ・作業分担や休日の確保、福利厚生の充実、過剰労働防止等に取り組む。 <p>借地の飛躍的増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真剣に取り組む姿を見た近隣の農家から、借地の申し出が急増する。延べ作付面積は就農時の3倍以上。 	<p>H25(2013年)農業生産法人株式会社 Growble農人を設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル(国際化)+グローアップ(成長)+ベジタブル(野菜)が社名の由来。 ・野菜とともに、人も会社も成長していきたい、世界で勝負できる野菜、会社にしていきたいという想いを込めている。 <p>地域でも有数の大規模経営に</p> <ul style="list-style-type: none"> -レタス 16ha -タマネギ 3.5ha -フロッキー 2.5ha -採種タマネギ 1.5ha -青ネギ 0.5ha -水稲 13ha -麦類 5ha <p>従業員がやりがいを持って取り組める職場環境の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いレタスづくりには『人の目』が重要。従業員も目的意識を持って作業。 ・毎朝、作業前に朝礼実施。 ・熟練度合いによって責任分担。作業リーダーをつくる。 <p>サラリーマン時代に培ったスタッフ管理のノウハウが役立っている。</p>	<p>経営基盤をさらに強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安定生産のために栽培管理技術の向上、土づくりに取り組む ・雇用労力の安定確保 ・作業場、事務所などハード面の整備 ・周年栽培が可能な作付体系 <p>計算のできる経営の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産量・販売金額、予算など目標の設定 ・作業性の向上 ・経営管理の徹底とコスト削減 <p>農業・農村の若い担い手の育成・独立・共同体組織への発展。</p> <p>農外との係わりが重要 ↓ 広い視野を持ち、農業経営</p>

株式会社Growble農人 <課題と対応策>

<売上推移>



フェーズ		就農期 平成18年～平成19年	転換期 平成20年～24年	発展期 平成25年～27年	将来展望
主な出来事		●Uターン ●農業大 ●家族3名での家族経営	●新規作物の導入 ●借地による経営規模拡大	●経営移譲 ●株式会社設立	●人を育てる ●経営基盤をさらに強化
経営課題	ヒト・組織	家族中心、臨時雇用	外国人研修生受入、常時雇用	法人化	
	土地・設備	農地集積開始	飛躍的な規模拡大	さらに規模拡大	作業場・事務所の整備
	カネ		補助事業、制度資金		運転資金の安定確保
	技術・ノウハウ	農業経験なし	新規作物		収量・品質を高位安定化
	販売・販路	JAのみの取引	新規作物は契約栽培		
	情報	農業大、父親	豊南担い手会		異業種との交流
	地域	若手農業者の減少	新規就農者の増加	法人増加と規模拡大	若手農業者の増加
	具体的内容	・農業経営への参画を決意 ・農業経験は全くなく、知識・技術ともに一からの出発 ・雇用のできる経営を第一の目標に掲げる	・急激に農地集積が進み労働力不足になる。 ・大規模化に対応した栽培管理技術の確立と、設備・機械の確保	・雇用の安定確保に向けて、安心して働ける環境整備が急務となる。 ・販売額、雇用の増大から経営管理に係る労力が増大。	・人材育成の強化 ・優秀な人材の確保 ・経営効率の向上
対応策	・農業大の社会人コースへの参加と、父親からの技術継承 ・露地野菜中心の経営を強化するための計画を立てる。父親が認定農業者に。 ・農地は農業委員会への相談とともに自分自身でも地道に探す。	・外国人研修生の受入と臨時雇用の増加 ・補助事業、制度資金の活用による資本装備の充実 ・先進農家のノウハウを学び、自分流にアレンジ	・福利厚生、経営管理の充実を目指し法人化 ・奥さんが経営に参画。事務作業の面で経営を支える。	・独自の社員教育ノウハウの確立 ・働きやすい職場環境の整備 ・目標管理の具体的数値化と強化	
外部環境	※食品会社の偽装事件相次ぐ	※東日本大震災	※消費税8%スタート(H26)		